

## 2023 年度課題別研修「中南米地域 道の駅による道路沿線地域開発」

北海道開発局では、北海道開発の経験や知識を活かした国際協力活動として、平成4年度から独立行政法人国際協力機構（JICA）と連携し、地域開発に携わる開発途上国の行政官を対象とした研修員の受け入れを行っています。

課題別研修「中南米地域 道の駅による道路沿線地域開発」は、昨年度までの中米地域に南米地域も加わり 10 カ国 13 名の研修生を受け入れ、寒地土木研究所とともに協力しました。国際室では、地域開発政策としての北海道総合開発計画に関する講義等を担当し、研修生による局次長の表敬訪問も実施しました。

- 研修名：2023 年度課題別研修「中南米地域 道の駅による道路沿線地域開発」
- 研修期間：2023 年（令和5年）8月15日～9月12日
- 
- 研修目的：主に北海道の道の駅の取組事例を参考としながら、幹線道路沿線地域の開発計画が帰国研修員のイニシアティブにより立案・実施され、地域住民の所得向上ひいては地域間格差の是正に貢献すること
- 参加者：日本側 受託機関 北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）  
コースリーダー 道路建設株式会社 取締役 松田 泰明  
協力機関 寒地土木研究所  
：研修員側 ポリビア、ブラジル、コロンビア、コスタリカ、ドミニカ共和国、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、ペルー  
10 カ国 13 名
- 研修概要

### 1 講義の様子

今年度、当局が担当した「北海道の概要」、「日本の行政システム」、「北海道総合開発の体制」の講義については、ビデオを研修員に事前視聴してもらい、当日はそれにプラスした講義を行いました。研修員からは、たくさんの質問を受け、意見交換を行いました。

研修員達から熱意ある積極的な質問が多く、非常に有意義な講義となりました。



### （主な質問・意見の内容）

- ・食料供給地である北海道の事例は参考になる。
- ・今後どのようなことが「道の駅」に期待されているのか。
- ・日本ではどのような理由で東京に人口が集中しているのか。
- ・地方交付税の配分額の決定方法は自治体の人口や面積によって決まるのか。

## 2 北海道開発局次長表敬

8月17日、研修員13名が小島北海道開発局次長を表敬訪問しました。小島局次長からは歓迎の挨拶と、今回の研修で道の駅による地域開発を学ぶとともに北海道の豊かな食も堪能いただきたいと伝え、また、研修員代表から歓迎への謝辞を受けました。



## 3 道の駅の見学

今年度は十勝管内まで足を伸ばし、多くの道の駅を見学しました。研修員はそれぞれの道の駅のコンセプト、設置・管理運営方法や住民参加、地域資源活用等の違いを学び、自国に適用できるアイデアを一生懸命収集していました。

見学後の研修員からは、トイレの清潔さに驚いた、各地域の魅力ある飲食・物販等の品揃えや陳列の工夫が参考になった、道の駅が住民の交流の場・地域づくりの拠点としても活用されている事例が素晴らしい、道路交通や周辺環境が道の駅の盛り上がりに影響を与えることを学んだといった感想を聞きました。



#### 4 アクションプラン（各国の道の駅設置・運営に向けた行動計画）

9月11日、12日の2日間、研修生は自国における道の駅建設予定地の特徴や現状を踏まえた上で、道の駅の設置・運営の具体的な行動計画や課題を取りまとめ、今後どのように課題を解決した上で計画を遂行していくのか発表しました。そして、他の研修員やコースリーダーから質問やアドバイスを受けることで、より一層自国において道の駅を設置するための道筋を明確にし、自国での実現の具体化が期待される内容となりました。



#### 5 閉講式

9月12日の閉講式では、研修員全員が修了証書を受け取りました。当局として北村国際室長から、今回の研修で学んだことをそれぞれの国の地域の特性に合わせて生かし、国や地方自治体、民間と協力しながら地域開発をぜひ進めてほしいとエールを送りました。

研修生からは自分たちが作成したアクションプランにさらに磨きをかけ、自国に戻った後も地域開発のために道の駅の設置を進めたいとの強い決意が示されました。また、研修担当がサプライズで研修中の写真を動画にまとめたものを見て、とても感動していました。

本研修員の帰国後の努力によって、地域の発展に活かす素晴らしい道の駅を設置・運営できることを願っています。

